

## 日本藻類学会第27回大会開催記・参加記

### 大会会長 前川行幸：日本藻類学会第27回大会を終えて

2003年3月27日から30日の間、私どもの三重大学生物資源学部にて日本藻類学会第27回大会を開催させていただきました。無事に終了できましたことを関係各位及び参加者の皆様方に御礼を申し上げます。今回の大会は出席者が238名、発表数がポスターセッションも含めて119題と、開催前の予想を超える多くの参加者と発表がありました。そのため、発表日程の2日間で収まりきらなくなり、口頭発表の一部を急遽ポスターセッションに切り替えて頂くようお願い致しました。協力していただいた方々にはこの場をお借りしてお詫びと御礼を申し上げます。

さて、今回の大会ではいくつかの新しい試みを実行させていただきました。そのうちの 하나가、口頭発表に液晶プロジェクターを大幅に導入したことです。もちろんOHPでの発表も受け付けましたし、スライドでの発表を希望される方はその旨をあらかじめ申し出てくださいよう、アナウンスさせていただきましたが、スライドでの発表申し込みは一件もありませんでした。スライドでの発表はスライドを作るのに時間がかかり、また発表にも人手がかかります。液晶プロジェクターとOHPでの口頭発表は、発表者自身が操作するために人手がかからず、特に液晶プロジェクターでの発表はカラフルでしかもいろいろな工夫を凝らすことができますので、今後はこの形式での発表が主流になると思います。

液晶プロジェクターでの発表に伴いメディアもCD、MO、ZIP等でも受け付けさせていただき、受付のパソコンから発表会場のパソコンまで学内の専用LANにて転送しました。この方式をとるに当たり、いくつかの問題点がありました。まず、パソコンのOSとしてWindowsとMacの両方を用意しなければならないことです。予想ではWindowsの方が多かったのでは

すが、実際は両者がほぼ同じ割合でした。次に、OSとPowerpointのバージョンと相性の問題点です。会場のパソコンはできるだけ新しいバージョンのものを用意しましたが、ごく一部の発表でグラフや図と文字の配置がずれ、ご迷惑をおかけしました。

今大会では「アマモ場の生態と回復」というタイトルで、シンポジウムを企画しました。このシンポジウムは公開とし、広く参加していただくため無料にさせていただきました。本シンポジウムには大学や研究所の研究者のみならず、行政や企業の担当者および漁業者や一般の方々約150名の参加があり、活発な議論がありました。

大会3日目の懇親会には190名の参加者があり、これも予想を上回る盛況でした(写真2)。三重で開催されることもあり、大会前から多くの方々からいろいろな要望がありました。曰く、「イセエビは出るのか」、「いや、アワビが一人一個ずつ出るらしい」、「松阪肉は食い放題と聞いたが本当か」、「三重にはうまい地酒があるか」。ハイハイ、すべて承りました。十分とはいきませんでしたが、すべてお出ししました。また、特に皆様に気に入っていただけたのは「マグロの解体」でした。解体されたマグロ一本をその場で皆様に召し上がっていただきました。マグロの側から離れようとしなかった人が数十名、地酒の前にたむろして次々お代わりしていた人も十数名、企画した私どもにとっても楽しいひとときでした。

今大会を振り返って、いろいろありましたが、スタッフの方々、手伝ってくれた学生諸君、そして何よりも私どもの予想を上回って参加していただいた皆様方に、重ねて御礼申し上げます。

(三重大学生物資源学部)

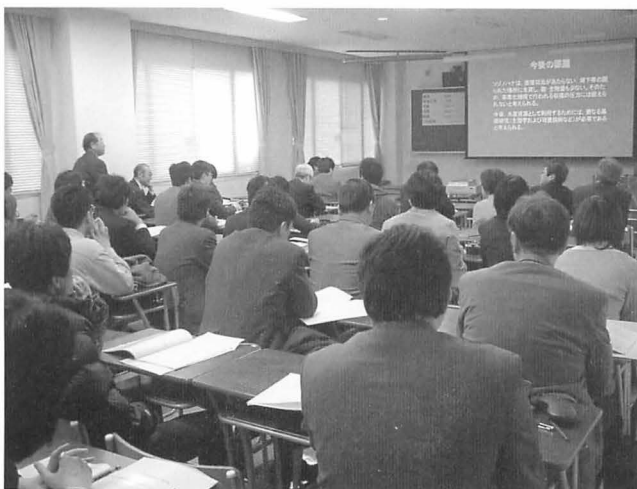


写真1. 講演会場



写真2. 懇親会会場